看護師基礎教育と新人看護職員研修における看護技術についての到達目標

資料5

Ⅳ：知識としてわかる　　Ⅲ：演習で実施できる　　Ⅱ：教員・指導看護師の指導のもとで実施できる　　Ⅰ：単独で実施できる

卒業時							新人研修終了時　（注：新人研修終了時の到達度は仮に設定したもの）					
1.環境調整技術	1	患者にとって快適な病床環境をつくることができる				Ⅰ	①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整 手術後の患者等の療養生活環境調整				Ⅰ	環境調整技術
	2	基本的なベッドメーキングができる				Ⅰ	②ベッドメーキング　例：臥床患者のベッドメーキング				Ⅰ	
	3	臥床患者のリネン交換ができる			Ⅱ							
2.食事の援助技術	1	患者の状態に合わせて食事介助ができる（嚥下障害のある患者を除く）				Ⅰ	②食事介助　例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助				Ⅰ	食事援助技術
	2	患者の食事摂取状況（食行動、摂取方法、摂取量）をアセスメントできる				Ⅰ						
	4	患者の栄養状態をアセスメントできる				Ⅰ						
	9	電解質データの基準値からの逸脱がわかる			Ⅱ							
	3	経管栄養法を受けている患者の観察ができる			Ⅱ		③経管栄養				Ⅰ	
	7	患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる			Ⅱ							
	8	モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる			Ⅱ							
	6	患者の個別性を反映した食生活の改善を計画できる		Ⅲ			①食生活支援			Ⅱ		
	5	患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	Ⅳ									
	10	患者の食生活上の改善点がわかる	Ⅳ									
3.排泄援助技術	1	自然な排便を促すための援助ができる				Ⅰ	①自然排尿・排便援助（尿器・便器介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む。）				Ⅰ	排泄援助技術
	2	自然な排尿を促すための援助ができる				Ⅰ						
	3	患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる				Ⅰ						
	5	ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる				Ⅰ						
	6	患者のおむつ交換ができる			Ⅱ							
	7	失禁をしている患者のケアができる			Ⅱ							
	11	失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる			Ⅱ							
	4	膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる			Ⅱ		③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理				Ⅰ	
	8	膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる		Ⅲ								
	9	モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる		Ⅲ			⑤導尿				Ⅰ	
	10	モデル人形にグリセリン浣腸ができる	Ⅳ				②浣腸				Ⅰ	
	12	基本的な摘便の方法、実施上の留意点がわかる	Ⅳ				④摘便				Ⅰ	
	13	ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	Ⅳ									
4.活動・休息援助技術	2	患者の歩行・移動介助ができる				Ⅰ	①歩行介助・移動の介助・移送				Ⅰ	活動・休息援助技術
	1	患者を車椅子で移送できる				Ⅰ	⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助 （例：不穏、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助				Ⅰ	
	7	患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる				Ⅰ						
	11	患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる				Ⅰ						
	12	患者のストレッチャー移送ができる				Ⅰ						
	9	目的に応じた安静保持の援助ができる			Ⅱ							
	6	臥床患者の体位変換ができる			Ⅱ		②体位変換（例：①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施）				Ⅰ	
	10	体動制限による苦痛を緩和できる			Ⅱ							
	13	関節可動域訓練ができる			Ⅱ		③関節可動域訓練・廃用性症候群予防			Ⅱ		
	3	廃用症候群のリスクをアセスメントできる			Ⅱ							
	8	廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる			Ⅱ							
	14	廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる			Ⅱ							
	4	入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる			Ⅱ		④入眠・睡眠への援助			Ⅱ		
	5	患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	Ⅳ									
5.清潔・衣生活援助技術	6	患者が身だしなみを整えるための援助ができる				Ⅰ						清潔・衣生活援助技術
	9	陰部の清潔保持の援助ができる				Ⅰ	⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換				Ⅰ	
	2	患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる				Ⅰ						
	1	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる				Ⅰ	④入浴介助				Ⅰ	
	8	入浴の介助ができる				Ⅰ						
	10	臥床患者の清拭ができる				Ⅰ	①清拭				Ⅰ	
	3	清拭援助を通して、患者の観察ができる				Ⅰ						
	11	臥床患者の洗髪ができる			Ⅱ		②洗髪				Ⅰ	
	4	洗髪援助を通して、患者の観察ができる			Ⅱ							
	13	患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる			Ⅱ		③口腔ケア				Ⅰ	
	12	意識障害のない患者の口腔ケアができる			Ⅱ							
	5	口腔ケアを通して、患者の観察ができる			Ⅱ							
	7	持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる			Ⅱ							
	14	持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる			Ⅱ		⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容（例：①から⑥について、全介助を要する患者、ドレーン挿入、点滴を行っている患者等への実施）				Ⅰ	
	15	沐浴が実施できる			Ⅱ							
6.呼吸・循環を整える技術	12	酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性がわかる				Ⅰ						呼吸・循環を整える技術
	10	酸素ボンベの操作ができる				Ⅰ						
	1	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる				Ⅰ	④体温調整				Ⅰ	
	5	酸素吸入療法が実施できる				Ⅰ						
	6	気道内加湿ができる			Ⅱ		①酸素吸入療法				Ⅰ	
	9	モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる			Ⅱ		③ネブライザーの実施				Ⅰ	
	11	気管内吸引時の観察点がわかる		Ⅲ								
	7	モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる		Ⅲ								
	8	モデル人形で、気管内吸引ができる		Ⅲ			⑤体位ドレナージ			Ⅱ		
	13	人工呼吸器装着中の患者の観察点がわかる		Ⅲ								
	15	循環機能のアセスメントの視点がわかる	Ⅳ				②吸引（気管内、口腔内、鼻腔内）			Ⅱ		
	3	患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	Ⅳ									
	2	患者の状態に合わせた温電法・冷電法が実施できる	Ⅳ				⑥人工呼吸器の管理			Ⅱ		
	4	末梢循環を促進するための部分浴・電法・マッサージができる	Ⅳ									
	14	低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がわかる	Ⅳ									
7.創傷管理技術	1	患者の褥創発生の危険をアセスメントできる				Ⅰ	②褥瘡の予防			Ⅱ		創傷管理技術
	2	褥創予防のためのケアが計画できる			Ⅱ							
	3	褥創予防のためのケアが実施できる			Ⅱ							
	4	患者の創傷の観察ができる			Ⅱ		①創傷処置			Ⅱ		
	6	創傷処置のための無菌操作ができる（ドレーン類の挿入部の処置も含む）		Ⅲ								
	7	創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる		Ⅲ								
	5	学生間で基本的な包帯法が実施できる	Ⅳ				③包帯法			Ⅱ		
8.与薬の技術	11	経口薬の種類と服用方法がわかる			Ⅱ		①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬				Ⅰ	与薬の技術
	1	経口薬（バッカル錠・内服薬・舌下錠）の服薬後の観察ができる			Ⅱ							
	12	経皮・外用薬の与薬方法がわかる			Ⅱ							
	2	経皮・外用薬の投与前後の観察ができる			Ⅱ							
	3	直腸内与薬の投与前後の観察ができる		Ⅲ								
	5	モデル人形に直腸内与薬が実施できる		Ⅲ								
	14	皮内注射後の観察点がわかる		Ⅲ			②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射				Ⅰ	
	15	皮下注射後の観察点がわかる		Ⅲ								
	16	筋肉内注射後の観察点がわかる		Ⅲ								
	7	モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる		Ⅲ								
	8	モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	Ⅳ									
	18	薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	Ⅳ				③静脈内注射、点滴静脈内注射				Ⅰ	
	17	静脈内注射の実施方法がわかる	Ⅳ									
	19	静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	Ⅳ									
	6	点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	Ⅳ									
	4	点滴静脈内注射をうけている患者の観察点がわかる	Ⅳ									
	9	モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	Ⅳ									
	10	輸液ポンプの基本的な操作ができる	Ⅳ				⑤輸液ポンプの準備と管理				Ⅰ	
	20	抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる	Ⅳ				⑦抗生物質の用法と副作用の観察			Ⅱ		
	13	中心静脈内栄養をうけている患者の観察点がわかる	Ⅳ				④中心静脈内注射の準備・介助・管理			Ⅱ		
	21	インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	Ⅳ				⑧インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察			Ⅱ		
	22	インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる	Ⅳ									
	23	麻薬を投与されている患者の観察点がわかる	Ⅳ				⑨麻薬の主作用・副作用の観察			Ⅱ		
	24	薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む）方法がわかる	Ⅳ				⑩薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む）			Ⅱ		
	25	輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点がわかる	Ⅳ				⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察			Ⅱ		
9.救命救急処置技術	1	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる				Ⅰ	⑦チームメンバーへの応援要請				Ⅰ	救命救急処置技術
	7	意識レベルの把握方法がわかる			Ⅱ		①意識レベルの把握				Ⅰ	
	2	患者の意識状態を観察できる		Ⅲ			②気道確保			Ⅱ		
	3	モデル人形で気道確保が正しくできる		Ⅲ			③人工呼吸			Ⅱ		
	4	モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる		Ⅲ			④閉鎖式心臓マッサージ			Ⅱ		
	5	モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる		Ⅲ			⑤気管挿管の準備と介助				Ⅰ	
	6	除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	Ⅳ									
	8	止血法の原理がわかる	Ⅳ				⑥止血			Ⅱ		
10.症状・生体機能管理技術	3	患者の一般状態の変化に気づくことができる				Ⅰ	①バイタルサイン（呼吸・脈拍・体温・血圧）の観察と解釈				Ⅰ	症状・生体機能管理技術
	1	バイタルサインが正確に測定できる				Ⅰ	⑦心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理				Ⅰ	
	5	バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる				Ⅰ	⑧パルスオキシメーターによる測定				Ⅰ	
	4	系統的な症状の観察ができる			Ⅱ		②身体計測				Ⅰ	
	2	正確に身体計測ができる			Ⅱ							
	8	正確な検査が行えるための患者の準備ができる			Ⅱ							
	9	検査の介助ができる			Ⅱ							
	10	検査後の安静保持の援助ができる			Ⅱ							
	11	検査前、中、後の観察ができる			Ⅱ							
	6	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる			Ⅱ		⑤採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い				Ⅰ	
	7	簡易血糖測定ができる			Ⅱ		⑥血糖値測定と検体の取扱い				Ⅰ	
	14	身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる		Ⅲ								
	13	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	Ⅳ				④動脈血採血の準備と検体の取り扱い			Ⅱ		
	12	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	Ⅳ				③静脈血採血と検体の取扱い				Ⅰ	
11.感染予防技術	1	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗いが実施できる				Ⅰ	①スタンダードプリコーション（標準予防策）の実施				Ⅰ	感染防止の技術
	2	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の装着ができる			Ⅱ		②必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択				Ⅰ	
	3	使用した器具の感染防止の取り扱いができる			Ⅱ		③無菌操作の実施				Ⅰ	
	4	感染性廃棄物の取り扱いができる			Ⅱ		④医療廃棄物規定に沿った適切な取扱い				Ⅰ	
	5	無菌操作が確実にできる			Ⅱ		⑥洗浄・消毒・滅菌の適切な選択			Ⅱ		
	6	針刺し事故防止の対策が実施できる			Ⅱ		⑤針刺し事故防止対策の実施と針刺し事故後の対応				Ⅰ	
	7	針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	Ⅳ									
12.安全管理の技術	1	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる				Ⅰ						安全確保の技術
	2	災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる				Ⅰ						
	3	患者を誤認しないための防止策を実施できる				Ⅰ	②患者誤認防止策の実施				Ⅰ	
	4	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる			Ⅱ							
	5	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる			Ⅱ		③転倒転落防止策の実施			Ⅱ		
	6	放射線暴露の防止のための行動がとれる			Ⅱ		④薬剤・放射線暴露防止策の実施			Ⅱ		
	7	誤薬防止の手順にそった与薬ができる		Ⅲ			①誤薬防止の手順に沿った与薬				Ⅰ	
	8	人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	Ⅳ									
13.安楽確保の技術	1	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる			Ⅱ		①安楽な体位の保持			Ⅱ		苦痛の緩和・安楽確保の技術
	2	患者の安楽を促進するためのケアができる			Ⅱ		②電法等身体安楽促進ケア			Ⅱ		
	3	患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる			Ⅱ		③リラクゼーション			Ⅱ		
							④精神的安寧を保つための看護ケア			Ⅱ		